

学 長 告 辞

若草の萌え立つ爽やかな季節に、本学の名誉教授、琉球大学同窓会、琉球大学後援財団のご来賓並びにご家族・保護者の皆様方にご臨席を賜り、平成 29 (2017) 年度の学部及び大学院の入学式を挙げていただけますことは誠に喜びにたえません。

入学生諸君、琉球大学へのご入学、おめでとうございます！ 私ども教職員と在學生は諸君を歓迎し、諸君のこれまでの努力と精進を称え、心からお祝い申し上げます。また、入学生のご家族・保護者の皆様にも心からの祝福を申し上げます。入学生諸君が充実した学生生活を送ることができるよう、私ども教職員一同は皆さんをしっかりサポートして参ります。

琉球大学は、1950 年に設立され、この 60 数年間で 8 万人近い卒業生を社会へ送り出してきました。卒業生は、国内外の様々な分野で活躍しており、本学の大きな誇りであります。

琉球大学では、グローバルに活躍できる人材を育成するために、学士教育課程において「琉大グローバルシティズン・カリキュラム」を 2012 年度入学生から実施し、すでに 2 期生を輩出しております。その中の一人に、現在、上映中のディズニー映画『モアナと伝説の海』の日本語吹替版で主人公モアナ役を務めている屋比久知奈（やびく・ともな）さんがいます。

大学院については、研究者として自立した研究活動を展開するための、または社会の多様な方面で活躍することができる高度な専門性や研究能力を発揮するための、基礎となる豊かな学識と人間性を培うことを大学として支援しております。

これからの時代、大学教育は、学生諸君のひとり一人が人生の困難な諸問題に立ち向かうことのできる強靱でしなやかな精神力を持ち、叡智豊かな自律した創造的人間へと育つのを手助けするものであるべきだと考えています。社会に巣立った後も、諸君には、大学あるいは大学院の学びを糧に生涯学び続けていくことが求められます。それと同時に、われわれ大人たちは、諸君が存分に活躍できる未来のために、夢や希望が持てる社会をつくり上げていく責務を負っています。

ところで、私は 2013 年 4 月に学長就任後、2050 年を念頭に置きながら大学運

営を行って参りました。2~3年先、あるいは明日・明後日が大事だと主張する人もいましたが、諸君には40~50年のタイムスパンの中で今を捉える柔軟性をもって生きてもらいたいと願っています。私は2050年まで生きながらえる自信はありませんが、1950年に誕生した琉球大学にとっては、その年、創立百周年を迎えることになります。そのころ、諸君は50代になったばかり、まさに働き盛りで社会を牽引する中堅人材となっているはずです。

2015年に『2050 JAPAN RESTORED』という本が出ました。日本語訳『2050 近未来シミュレーション日本復活』は、昨年の8月に出版されました。私と同じ発想をする人がいるものだと思います、その本を買って一気に読み終えた覚えがあります。

著者は、1980年代のレーガン政権で日米貿易交渉担当官を務めた、日本叩きで有名なクライド・ブレストウィッツさんです。その本の中から一部を紹介します。（*）

「2050年春、東京へ出張する。彼にとっては35年ぶりの東京だ。ワシントンDCを飛び立って2時間半、超音速ジェット旅客機は羽田空港へと降下を始めた。

（羽田では）入国審査も通関手続きもない。パスポートは機上でスキャンされ、フライト中にそのデータが審査されているからだ。

どこへ行くにも、もはや日本では、誰も運転などしない。道路も建物も乗り物も、すべてスマート化されている。日本では交通事故がほぼなくなり、当然のことながら交通事故による死傷者もいなくなった。

日本は、風力や太陽光、潮流・海流、メタンハイドレートなどの低コストのエネルギー資源を開発し、全国に張り巡らされたスマートグリッド（送電網）で結んでいる。これによって、発電コストは限りなくゼロに近づき、原子力と化石燃料によるコストをはるかに下回った。

予約しておいたホテルに到着する。ホテルマンが非の打ち所のない美しい国際英語で彼を出迎えてくれる。これは日本が完璧なバイリンガル国となったことを示すちょっとした証拠だ。チェックイン手続きは不要だ。空港からホテルに到着するまでの間に、手続きはすべて電子的に処理されていたからだ。

近年、治療目的で来日する外国人が増えているのも日本の先進技術を示す例だ。損傷を受けた神経や、機能不全の手足を修復する幹細胞を使った再生医療など、最先端の治療法を求め、あるいは最新の診断サービスを求めてやってくる。また日本の病院や医療機関での研究や仕事を求めてやってくる医療関係者もいる。現在、日本人の平均寿命は95歳で、他の長寿国と比べても8歳ほど長生きなの

だ。最も注目すべきは、アルツハイマー病や認知症を発病する人が激減したことだ。日本の高齢者の多くは、健康で明るい老後を満喫しているのである。

日本企業のオフィスにいる幹部のほぼ半分は女性や外国人なのだ。取締役会には女性役員がずらりと並び、北欧企業で女性役員が占める比率を上回る。

午後 5 時を過ぎるとオフィスはほとんど空っぽになり、バーや居酒屋では閑古鳥が鳴いている。

日本企業の復興を後押ししたもう一つの大きな要因は、製造部門に比べて後れを取っていたサービス部門にも力を入れ始めたことにある。今では、ホテルや保険、銀行、オンライン通販といったサービス産業に占める日本のシェアは、製造部門のシェアに匹敵する。そして総合的に見て、日本の生産性は世界のトップを走っている。」

このように、ブレストウィッツさんは今から 33 年後・2050 年の日本の近未来を楽観的に描いています。諸君の将来をイメージするのに役立ったでしょうか。諸君の職業選択にも大きく影響します。彼が描くように日本が再生・復活するかどうかについて確かなことは言えませんが、技術革新によるイノベーションや AI（人工知能）が進展し、産業構造や社会構造、生活スタイルが大きく変化することだけは確かです。

ますます将来予測が難しくなるこれからの時代ですが、諸君は大学でどのように学び過ごせば良いでしょうか。大学では、主体的に考える力と生涯学び続ける学び方を修得することが大切だと思います。主体的なかわりによって、これからの困難な時代を生き抜く知恵と叡智が身につくようになりますが、環境がどのように変わっても、つぶしのきく人になっていただきたいと希望します。

琉球大学では、主体的な学びができる空間として附属図書館にラーニング・コモンズを用意しています。どうぞ、ご活用ください。また、企業等で体験するインターンシップや留学を経験するプログラム、子どもの貧困対策としての子どもの居場所でボランティアするメニューなどを取り揃えて、諸君の成長を後押しいたします。また、経済的に困っている諸君を支援する施策やハンディキャップをもった諸君や留学生諸君が安心して学生生活を送れるよう支援措置を用意しています。必ずしも満足のいく完璧な支援ではありませんが、教職員や在学生在が諸君の学びを支援してくれます。ですから、琉球大学に入学したからには、この大学でしか学べない、あるいは経験できないことを自らの身をもってチャレンジし、人間としての幅を大きくして下さい。

本日、本学に入学を許可された学生は、学部学生が 1,595 名、大学院学生が 318 名、計 1,913 名です。どうぞ、今の新鮮な気持ちと大学で学びたいという強い決意を卒業式・修了式まで持ち続け、稔り豊かな学生生活を送ってください。私どもは、そのために頑張る諸君を支え続けていくことをお誓い申し上げ、私の告辞といたします。本日は、誠におめでとうございます。

平成 29 (2017) 年 4 月 4 日

国立大学法人琉球大学長

大城 肇

(*) クライド・ブレストウィッツ『2050 近未来シミュレーション日本復活』
東洋経済新報社、25～36 頁より抜粋。